

## ターミネーション I における急激な海水準と氷床変動 Rapid sea-level changes and routing of meltwaters during the termination I

横山 祐典<sup>1\*</sup>

YOKOYAMA, Yusuke<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 東京大学大気海洋研究所

<sup>1</sup> Atmosphere and Ocean Research Institute, University of Tokyo

約 20,000 年前の最終氷期最盛期 (LGM) から現在にかけて、海水準は一様ではなく急激な上昇を伴いながら上昇してきた。Fairbanks による 1989 年のバルバドス沖のサンゴ礁海洋掘削コアからもたらされた海水準のカーブの発表から 20 年を経た現在、新しく Carbonate および Siliciclastic 環境での掘削や宇宙線生成核種 (10Be や 26Al など) を用いた氷床近辺からのデータが蓄積されてきた。最近ではタヒチの陸上コアからのサンゴ礁掘削試料に基づくヤンガードライアス時の海水準変化 (Bard et al., 2010 Nature) や IODP の沖合コアによるサンゴ礁コアからのメルトウォーターパルス 1a (Mwp 1a) の海水準変動の記録、そしてグレートバリアリーフ沖掘削コアなどが得られてきた (Yokoyama et al., 2011 Sci Dril)。本講演ではこれらに基づく最新の知見とともに、そのタイミングと気候変動におよぼした影響などについてレビューする。

キーワード: 古気候, 古海洋, 海水準, 氷床, 南極

Keywords: Paleoclimatology, Paleoceanography, Sea level, Ice Sheets, Antarctica